

第2学年「みがく」学習活動案

授業者 岩坂 尚史

2月17日(土) 2階C室 10:00~10:40 (話し合い 11:00~11:45)

1 活動名 生活の中の対立について考えよう～よい選び方は何だろう?～

2 活動について

本活動では、「サークルでの発表者の決め方」について取り上げる。サークルとは、輪になって座り、生活経験に基づく自分の興味関心や気づきなど伝えたいことを聴き合う時間であり、本学級では毎日のように継続して行っている。その運営は各クラス様々で、年度当初は一年生時に各クラスで違ったやり方をざっと聞き「二年生では、最初の発表者を日直が指名し、発表者が次の発表者を当てるというやり方でやってみましょう」と提案し行ってきた。

子どもたちの様子を見てみると、毎回複数人が手を挙げるので、誰を指名するのかを日直が相談して決めている。ある日、発表者の〇児が手を挙げている子の近くに行き「だいたいどんな話?」と耳打ちで聞き、それぞれの話の概要をつかんでから発表者を決定した。教員も「その決め方、(人間関係ではなく、内容で決めているから) いいね」と反応したことも相まって、その方法が広がっていった。

毎日のように継続してサークルを行っていると、座席のあり方などサークルの運営について問題点や疑問が上がり、その都度話し合いをしてきた。そして、二学期の終盤、改めてサークルのルールをどうすべきかと問うてみた。まずは、現状のサークルの運営状況を整理し「一つのベンチに生活班が男女交互に座る(座り方)」、「日直が最初に話す人を決める(最初の選び方)」、「指名の仕方は、適当に選ぶ、お話を聞いてから選ぶ(次の選び方)」、「サークルベンチを運ぶのはやってくれる人が運ぶ(運び方)」を確認した。その中でどれを問題として感じているかを聞いたところ、「次の選び方」が圧倒的多数であった。次に、どんな選び方が良いかを聞いたところ、「当てられなかった人から当てる」「お話を聞いてから選ぶ」「(出席番号が書かれた)くじを引く」「(発表者が男児の場合次は女児を当てるような)男女交互にあてていく」「(話したい人は名簿に書いていく)予約表」「出席番号順にあてていく」等が上がった。

これらの選び方の理由を聞いたところ「話したい人が複数人いると活動終了時に当てられなかった人は話せない。それはかわいそうだから、次のサークルはその人から当てていく」、「男児が発表者だと次の発表者として男児を選ぶ傾向があるから発表者が決めることはやめたほうがいい」等が挙がり、価値として公平さが潜んでいる。また「話の概要が自身の興味とつながり面白かったから話を聞いて発表者を選ぶ」や「話したい時に予約表に書くことにより確実に自分の番が回ってくる」等も挙がり、個人の権利をいかに保障するかという視点も含まれている。

様々な発表者の選び方から、三学期は「予約表を作成し発表をしていく」という選び方を子どもたちに提案し進めていく。普段から子どもたちの願いをすべて叶えられることはかなり難しいので、対立する双方が納得できるような意見を授業者が提案し「これで行かせてください」とお願いする手立てをとっている。

本活動では、教員も含めクラス中のある程度の願いが反映された「予約表」の方法がどうだったのかを問う。実際にルールを運用していくことで子どもたちにも問題意識やそれぞれの主張の意図の理解が少しずつ生まれていると考える。それぞれの主張に潜む価値をあらわにし、なるべく多くが納得するようなよりよい決定について子どもたちと模索していきたい。

3 学習活動計画(1時間目/全4時間)

第1時…発表者の選び方「よやくひょう」について自身の考えを出し合い、問題点を整理する。(1時間)

第2時…今までの選び方をふり返り、発表者の選び方はどうするのかを決める。2時間…本時1/2)

第3時…話し合いをふり返り、自分の意見を書く(1時間)

4 本時の活動について

(1) 本時のねらい

○それぞれの主張と願いを聴き合い、よりよい決定は何かについて考える。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 前時のふり返りをする。	○問題点をわかりやすく整理して提示する。
2 提示された問題点について意見を出し合う。	○主張の背景に潜む価値をあらわにすることができるようにコーディネートする。
3 ふり返りを行う。	

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

よりよい決定に向けてどのようなことを授業者は意識すればよいか。